1　地域で支える新規就農者の育成・確保

【概要】

- 新規就農者の確保や定着に向け、地域ぐるみの支援体制づくり、作物の栽培技術・経営管理能力等の習得による所得向上及び新規就農者のネットワークづくり等の支援を行った。

【背景・課題】

- 三八地域では、新規就農者の約７割が非農家出身であるため、身近な人から農業の基礎を学ぶことが出来ない場合が多い。
- このため、市町村との情報交換と支援方向の検討を行いながら地域の実情に即した対策を講じることにより新規就農者の経営安定化、定着を図っていく必要がある。

【普及指導活動の内容】

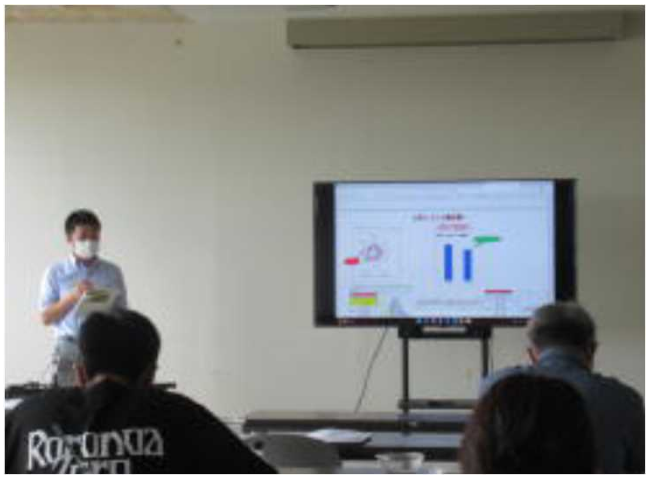
- 指導農業士会、４Ｈクラブ、市町村、農協等を参集し、地域ぐるみでの新規就農者の育成・確保に向けた体制づくりを検討した。
- 「土づくりと肥料」等をテーマに、新規就農者フォローアップセミナーを開催し、基礎的技術の習得を支援した。
- 新規就農者のほ場３か所（スナップエンドウ、ピーマン、ミニトマト）に収益力アップチャレンジ農場を設置し、栽培技術の向上を支援した。
- 「さんぱちファーマーズマルシェ」を開催し、新規就農者同士の交流を促進した。

【成果】

- 各市町村の振興作物延べ14品目について、新規就農希望者の農業研修受入先として、管内先進農家（12経営体）を確保した。
- 収益力アップチャレンジ農場の設置により、新規就農者が問題点の解決策を自ら検討し実践したほか、意欲的に経営改善に取り組む意識が醸成された。
- さんぱちファーマーズマルシェは、約1,500名が来場し、販売活動を通じて新規就農者と消費者の交流が図られた。また、新規就農者と若手農業者による実行委員会を中心に開催したことから、自主的に今後も取組を継続する動きがみられる。

【対象名】

農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付対象者（50名）
同交付終了者（151名）



フォローアップセミナー（8/2）

収益力アップチャレンジ農場（8/9）

さんぱちファーマーズマルシェ（10/2）

２　産地直売組織を支える農山漁村女性の育成

【概要】

- 農山漁村女性の育成に向けて、女性起業者等を対象とした郷土料理の技術伝承講習会の開催やこども園と連携した食を生かした地域活動への取組を支援した。さらに産直組織を対象に、産直の販売額向上に向けたＰＲ活動への支援や販売力強化に向けた研修会等を開催した。

【背景・課題】

- 産直組織では、会員の高齢化により郷土料理の加工等に取り組む女性起業者が減少し、品不足が課題となっている上、後継者不足により加工技術が継承されず、郷土料理の存続が難しい。
- 郷土料理の技術伝承や産直組織の販売力及び機能強化の取組支援で、産直組織を支える人材を育成する。

【普及指導活動の内容】

- 郷土料理の技術伝承に向けて、若手女性起業者等を対象に、郷土料理の「きんかもち」や「赤かぶ漬け等」の講習会を開催した。
- 先輩女性起業者と若手女性起業者によるマッチングを実施し、寒大根等の技術指導や事業継承等について情報交換した。
- 郷土料理を活用したこども園への給食の提案や郷土料理体験交流会の開催等を支援した。
- 産直組織の資質向上に向けて、活動検討会の開催やラジオを活用したＰＲ活動、イベントポスター作成等への取組を支援した。

【成果】

- 若手女性起業者は、講習会で学んだ加工技術を磨き、産直での販売など技術伝承につながった。
- 女性起業者の食を生かした地域活動では、こども園の給食での長芋等を活用した料理の提供や「豆しとぎ」の体験交流会の開催により、子供たちが郷土料理に触れる機会を増やすことができ、今後も保育園と連携して活動することとした。
- 産直組織では、毎週ラジオでのＰＲ放送や、毎月各産直のイベント情報をまとめたポスターの作成及び掲示により客数の増加につながった。

【対象名】

三八産直ネットワーク（15組織）
管内女性起業者（38件）
若手女性起業者（15件）

郷土の味を伝え継ぐ技術伝承講習会
「漬物加工と営業許可」（9/6）

体験交流会の開催（1/31）
「みんな大好き！豆しとぎを作ろう！」

産直のＰＲに向けたラジオの収録
「なんぶふるさと物産館」

３　「ジュノハート」のブランド化に向けた良品生産の拡大

【概要】

- おうとうジュノハートのブランド化に向けて、講習会や巡回指導等により栽培技術の普及や出荷規格の遵守に取り組んだ。結実不良や裂果等がみられたが、おおむね生育状況に応じた適正管理が行われ、八戸農協及び南部市場の出荷量は前年を上回った。

【背景・課題】

- ジュノハートは、ブランド化推進協議会の戦略に基づきブランド化が進められており、令和２年に県外販売が開始され、良品生産の拡大が必要である。
- 若木が多く生産量が増加していくので、栽培技術の普及が必要であり、着色不良や障害果等の対策が求められている。
- 出荷規格が一部で守られていないので、規格の周知と遵守が必要である。

【普及指導活動の内容】

- 講習会開催（４～６月、３回）や生産情報発行（４～６月、４回）により、適正管理指導や出荷規格の周知を行った。
- 生育観測ほを５園地に設置し、調査データを講習会等で活用した。
- 若手や収穫量の多い生産者を濃密指導するため、22戸をリストアップし、４～５月に農協及び南部市場と一緒に個別巡回指導を行った。
- 裂果対策や出荷方法の情報共有のため、６月に生産・出荷現地検討会を開催した。
- 着色向上に向けて、サンキャッチ液剤（植調剤）の現地実証ほを１か所設置した。
- 来年産の良品生産と適正出荷に向けて、２月に生産出荷研修会の開催や栽培暦の配布を行った。

【成果】

- 開花期の不順天候により結実がやや少なく、６月上旬頃の降雨等により裂果が多発したが、おおむね生育状況に応じた適正管理が行われた。
- 系統出荷は27名（前年15名）で出荷量408kg（同391kg）、南部市場は41名（同27名）で出荷量265kg（同135kg）であった。

【対象名】

おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者（117名）

栽培講習会（４月）

生産出荷現地検討会（6/17）

生産出荷現地検討会(6/17)

４　ながいも産地の維持に向けた担い手の育成

【概要】

- 優良種苗の更新につなげるため「増殖方法を改善した種苗の導入効果実証ほ」を設置し、１年子の形状や揃いを検討した。
- また、若手生産者の栽培技術の高位平準化に向けて、現地講習会及び「担い手育成塾」により排水対策等を指導した。
- 個別課題の解決に向けて「生産技術チェックシート」で自己分析を促すとともに、「省力作業体系実演会」への参加誘導を図り、機械化による省力化について指導した。

【背景・課題】

- ながいもの作付面積・栽培人数は、高齢化等で減少している。産地を維持するため、単収向上と省力化推進による作付面積の拡大が必要である。
- 「若手研究会」へのアンケートにより品質向上、労働力の確保、規模拡大や輪作ほ場の確保が課題となっており、優良種苗への更新と担い手の個別課題の解決を目指す。

【普及指導活動の内容】

- 「増殖方法を改善した種苗（切いも由来のむかご）の導入効果実証ほ」を設置したほか、種いも生産における「選抜」の必要性を説明した。
- 「生産技術チェックシート」による聞き取りと個別指導を行った。
- 講習会で適期追肥、防除、排水対策を指導し、「担い手育成塾」では、現地ほ場で達人の技術に関する研修会を開催した。
- 「にんにく省力作業体系実演会」に、ながいもの生産者３名が参加した。

【成果】

- 種苗の実証ほでは、実証区で１年子形状の揃いは良かったが、むかごサイズや植付時期の検討が必要と考えられた。
- チェックシートにより自己分析が促され、種苗増殖体系の重要性も理解された。
- 現地講習会、育成塾の後、再度溝を切る等の排水対策を講じる動きが見られた。
- 省力作業体系実演会では、機械化による補助労働力の軽減を期待する意見があった。

【対象名】

八戸農協野菜総合部会、ながいも専門部、ながいも若手研究会（47名）

種苗導入効果現地実証ほ収穫物
（上：実証区、下：対照区）

育成塾：通路排水を確認（10/13）

生産出荷現地検討会（6/17）

５　重要病害虫等に対応できるにんにく生産者の育成

【概要】

- 生産者自身が重要病害虫の被害を把握し、乾燥方法の改善が図られるように、現地講習会を行った。また、種苗増殖に関する研修会及び省力技術導入に向けた実演会を開催し、それぞれアンケート調査を行った。

【背景・課題】

- 当地域ではチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、モザイク病等の重要病害虫による被害が多い。また、品質向上のため乾燥技術の改善も必要とされている。
- 種苗増殖専用ほ場の設置を指導しているが、販売用ほ場と隔離されず、適正な管理が行われていない。
- 前年のアンケートにより、植付け・収穫作業の負担と労働力不足が明らかとなったため、労働力の現状把握と省力技術の導入が必要である。

【普及指導活動の内容】

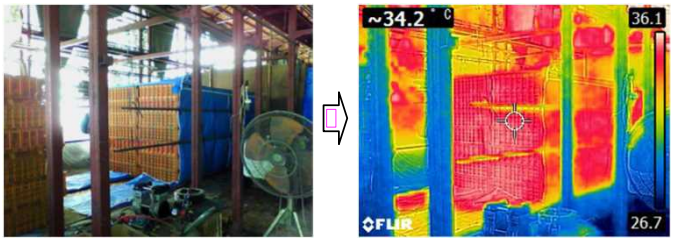
- 現地講習会では、生産者が重要病害虫の被害を判別できるよう、解りやすい写真を使用しながら防除の徹底と適期収穫を指導した。また、ウイルス検査を行うとともに、乾燥時には個別巡回を実施した。
- 若手生産者を対象に「にんにく優良種苗増殖技術研修会」を開催した。
- にんにく生産に関するアンケート調査を行い、労働力の現状を分析した。
- 「にんにく省力機械化体系実演会」を開催し、アシストスーツ等の実演を行った。

【成果】

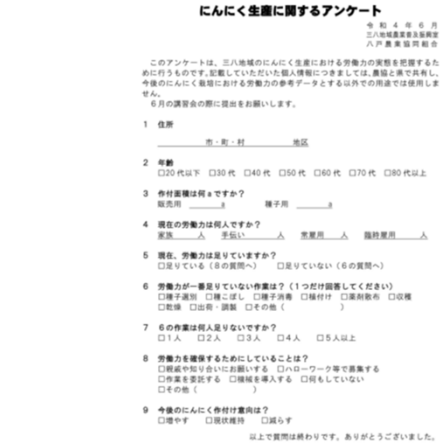
- 現地講習会では、薬剤防除の徹底と適期収穫の重要性が理解された。また、乾燥時の個別巡回では「乾燥チェックリスト」で基本技術を確認し、サーモグラフィーにより温度ムラの改善が図られた。
- 「にんにく優良種苗増殖技術研修会」を通じて種子専用増殖ほの重要性が理解され、１名が新たに設置する意向を示した。
- アンケートに回答した生産者の56％が労働力不足であり、特に収穫作業で顕著となっていることが明らかとなった。
- 「にんにく省力機械化体系実演会」では、アシストスーツへの関心が高く、３名の生産者に貸し出された。

【対象名】

八戸農業協同組合、にんにく専門部五戸支部西部（190戸）、田子支部（144戸）



サーモグラフィーで見える化（右側）



にんにく生産に関するアンケート

令和４年６月
三八地域農業普及振興室
八戸農業協同組合

このアンケートは、三八地域のにんにく生産における労働力の実態を把握するために行うものです。記載していただいた個人情報につきましては、農協と県で共有し、今後のにんにく栽培における労働力の参考データとする以外での用途では使用しません。
６月の講習会の際に提出をお願いします。

1　住所
＿＿＿＿市・町・村＿＿＿＿地区

2　年齢
□20代以下　□30代　□40代　□50代　□60代　□70代　□80代以上

3　作付面積は何ａですか？
販売用　＿＿＿ａ　　種子用　＿＿＿ａ

4　現在の労働力は何人ですか？
家族＿＿人　手伝い＿＿人　常雇用＿＿人　臨時雇用＿＿人

5　現在、労働力は足りていますか？
□足りている（８の質問へ）　□足りていない（６の質問へ）

6　労働力が一番足りていない作業は？（１つだけ回答してください）
□種子選別　□種こぼし　□種子消毒　□植付け　□薬剤散布　□収穫
□乾燥　□出荷・調製　□その他（　　）

7　６の作業は何人足りないですか？
□１人　□２人　□３人　□４人　□５人以上

8　労働力を確保するためにしていることは？
□親戚や知り合いにお願いする　□ハローワーク等で募集する
□作業を委託する　□機械を導入する　□何もしていない
□その他（　　）

9　今後のにんにく作付け意向は？
□増やす　□現状維持　□減らす

以上で質問は終わりです。ありがとうございました。

調査項目を絞ったアンケート（様式）

アシストスーツ体験
省力機械化体系実演会（9/7）